



秋田県立ゆり支援学校 教育プラン

令和5年度～令和9年度

I 学校の現状と課題 ・ 学校を取り巻く将来の状況の予測

1 中・高等部生徒数の増加と、多様な実態に応じた教育課程の編成

本校は平成11年4月に開校(児童生徒数42名)、平成19年度には102名となったが、その後は90名程度で推移していた。しかし、令和になり徐々に近隣の小・中学校からの進学が増加し、令和5年度には125名の児童生徒数となる等、今後も一定期間は中・高等部において生徒数の増加が予想される。

児童生徒の構成は、全校の半数以上を高等部生が占める状況が続いている。障害については、今後も小学部には重度の知的障害や肢体不自由を併せ有する児童が、中・高等部には特別支援学級や通常学級から軽度な知的障害や発達障害、精神疾患などを有する生徒が入学することが予想される。そのため、小学部から高等部まで一貫した教育を行うとともに、外部からの入学・転入学者の障害特性を踏まえた教育内容や支援が求められる。また、家庭事情に対応した生活リズムの確立や将来の生活自立を目的とした寄宿舎入舎へのニーズ等、目的に合わせた寄宿舎活用について進めることが必要である。

2 コミュニティ・スクール(以下CS)を核とした地域と双方向の交流活動の推進

地域の小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流、プロスポーツチームとのスポーツを通じた交流活動などを積み重ね、地域における障害理解についても少しずつ進んできている。また、地域貢献活動についても奉仕活動や環境整備、作業学習交流、販売活動等を通して地域とのつながりが広がりつつある。今後は、こうした活動について課題と成果を整理しながら系統的・継続的に実施していくことが求められる。地域との双方向の交流を目指し、CSディレクターともさらに連携し、児童生徒の卒業後の生涯学習に繋がる活動についても検討していく。

3 社会情勢・生活様式の変化、障害の多様化に対応した生徒指導、進路指導の充実

コロナ禍による社会的活動の制限を経て、感染防止対策を日常的なものとし教育活動を進めていく必要がある。また、ICT機器の活用、情報リテラシーも踏まえた生徒指導や、軽度な知的障害と精神的な疾患を併せ持つ生徒への適切な指導や対応が必要とされている。また、各学部における段階的なキャリア教育の指導を推進するとともに、高等部卒業後に進路先から求められる資質・能力の育成も視野に入れた指導内容の充実を図っていく。

4 インクルーシブ教育システム構築のための地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校、高等学校へのセンター的機能の実施及び充実

幼稚園・保育所を含む就学前の適切な教育相談や、小・中学校等において、特別な支援を必要とする児童生徒への適切な対応の在り方に関する助言が求められている。適切な支援が十分でないまま特別支援学校へという流れではなく、児童生徒が必要としている支援への具体的な助言や、継続的に繋がり段階的に多様な学びの場を提供できる支援を関係機関、特別支援教育コーディネーター等と連携して進めていく必要がある。

II 目指す方向性 ・ 学校像や児童生徒の姿

○目指す学校像 ～地域と共に歩み、地域で育ち、地域に必要とされる学校～

- ・ 自立と社会参加を目指し、教育的ニーズに応じた適切な教育活動を展開する学校
- ・ CSを活用し、特色ある教育活動を推進するとともに、地域交流・地域貢献を通して地域を元気にする学校

○目指す子ども像

- ・ 元気な子：心身共に健康で楽しくのびのびと生活する児童生徒
- ・ がんばる子：興味や意欲をもって、主体的に最後まで活動に取り組む児童生徒
- ・ おもいやりのある子：友達を大切に、協力しながら活動する児童生徒

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

目標 1 多様な実態の児童生徒一人一人の成長と、卒業後の自立と社会参加を実現する一貫性のある教育活動の充実

取組(1) 一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成

- ① 系統的な教科指導と将来の自立に向けた指導内容の充実
- ② 学習指導要領の着実な実施に向けた年間指導計画の内容と様式の検討・実施
- ③ 教科指導における教師の専門性を生かした学部間の柔軟な配置と連携
- ④ 児童生徒一人一人における自立活動の適切な内容設定と教育活動全体を通じた指導の充実
- ⑤ 軽度な知的障害や発達障害等の障害特性の理解促進と情報共有

取組(2) 児童生徒自身が学びの積み重ねを実感できる授業実践

- ① 教科ワーキンググループを効果的に生かした授業デザインミーティング等の実施
- ② 授業アドバイザーと連携したねらいや支援・手立ての明確化と評価を積み重ねる授業の実践
- ③ ICTを効果的に活用した指導方法の充実
- ④ 外部専門家（言語聴覚士、理学療法士、作業療法士等）を活用した教師の専門性の向上

取組(3) 段階的なキャリア教育の推進及び進路指導・生徒指導の充実

- ① キャリア・パスポートの全学部の活用における児童生徒の主体性の育成
- ② 生徒の実態に応じた段階的な職場体験・現場実習の実施や内容等の充実
- ③ 地域の特産品や地元の企業と連携した作業学習製品の開発
- ④ 寄宿舎の機能を生かした生徒の生活自立に向けた力の育成
- ⑤ 校内での縦割り交流活動の計画的な実施
- ⑥ 肯定的な自己理解を育てる段階的なキャリア教育と適切な生徒指導

目標 2 インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、地域のニーズに沿った多様な学びの場を支えるセンター的機能の充実

取組(1) 幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実

- ① 特別支援学級実践研修等、学校訪問を通しての情報提供及び助言
- ② 地域のニーズを把握した（授業づくり支援、研修会の実施、学校見学会等）センター的機能の実施
- ③ 障害理解学習の内容の充実と実施対象の拡大
- ④ 小・中学校、高等学校、特別支援学級等の研修の受け入れによる地域への啓発
- ⑤ 特別支援教育アドバイザー、教育委員会との連携による相談機能の充実
- ⑥ 小・中学校におけるミニ学校展や教材・教具展示の実施

取組(2) 関係機関との緊密な連携による地域の特別支援教育の充実

- ① 由利本荘市・にかほ市特別支援連携協議会の開催による情報共有
- ② 個別の教育支援計画を活用した放課後等デイサービスや関係機関との連携

目標 3 地域の一員として地域生活の基盤を築く、地域と学校双方における有益な関係性の構築

取組(1) CSを活用した地域の特色を踏まえた計画的な交流活動

- ① ねらいを明確にした計画的な交流活動・地域貢献活動の展開
- ② 地域の学校における居住地校交流、交流及び共同学習の推進
- ③ 地域のニーズを踏まえた双方向の交流活動の推進
- ④ 卒業後の生涯学習や余暇活動に繋がる地域資源の効果的な活用
- ⑤ 地域学校展や報道機関を活用した情報発信と細やかな情報収集

取組(2) 地域のニーズに応じた学校施設等の整備・充実

- ① 由利本荘市と連携した福祉避難所の計画的な開設準備
- ② 福祉エリアや保護者と連携した防災訓練の実施

令和5年度の重点事項（5か年計画の1年目）

目標1 多様な実態の児童生徒一人一人の成長と、卒業後の自立と社会参加を実現する一貫性のある教育活動の充実

取組(1) 一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成

- ① 小学部（生活科、日常生活の指導）、中学部（職業・家庭科）、高等部（職業科・家庭科）の指導内容と系統性の検討
- ② 音楽科、体育科の学習指導要領の着実な実施に向けた年間指導計画の内容と様式の検討
- ③ 音楽・体育等の教科指導における教師の専門性を生かした学部間の連携推進
- ④ 「子ども理解シート」を活用した児童生徒理解と一人一人における自立活動の適切な内容設定
- ⑤ 児童生徒の問題行動等の背景や要因の把握と、一貫した対応に繋がるための学部ケース会等の実施

取組(2) 児童生徒自身が学びの積み重ねを実感できる授業実践

- ① 音楽科、保健体育科、職業・家庭科における授業デザインミーティングの実施
- ② 授業アドバイザーと連携した授業研究会の実施や具体的な授業改善
- ③ ICT通信による情報発信と活用に向けた研修の充実
- ④ 外部専門家（言語聴覚士、理学療法士、作業療法士等）を活用した研修会の実施

取組(3) 段階的なキャリア教育の推進及び進路指導・生徒指導の充実

- ① 個別の指導計画、個別の教育支援計画等の教育資料とキャリア・パスポートの関連や役割の整理
- ② 学部間の交流における作業学習体験や生徒の実態に応じた職場体験活動の実施
- ③ 各作業班の作業学習製品の改善・開発及び地域とのコラボ製品や校外作業学習に関する検討
- ④ 一般就労希望生徒を中心とした全学年の寄宿舍集団生活体験の実施
- ⑤ 全校集会における縦割り交流活動の計画的な実施
- ⑥ キャリア・パスポートの作成・活用における自己理解の推進と保護者の肯定的な評価

目標2 インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、地域のニーズに沿った多様な学びの場を支えるセンター的機能の充実

取組(1) 幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実

- ① 市教委や教育事務所出張所と連携した各校のニーズに応じた具体的な情報提供
- ② 具体的な授業づくり支援、学校見学会等の実施
- ③ 障害理解学習の研修校内実施と幼保、社会人に向けた障害理解学習の実施
- ④ 小・中学校、高等学校初任者研修、特別支援学級等の研修への協力
- ⑥ 適切な就学・進学に向けた特別支援教育アドバイザーや市教委との情報共有
- ⑦ 居住地校交流や障害理解学習の効果を高めるミニ学校展の合同開催

取組(2) 関係機関との緊密な連携による地域の特別支援教育の充実

- ① 由利本荘市・にかほ市特別支援連携協議会の開催と効果的な情報共有の方法検討
- ② 教育支援計画を活用した放課後等デイサービスや関係機関との情報共有

目標3 地域の一員として地域生活の基盤を築く、地域と学校双方における有益な関係性の構築

取組(1) CSを活用した地域の特色を踏まえた計画的な交流活動

- ① 学年のニーズに応じ、ねらいを明確にした交流活動の実施と、計画的な清掃活動や花壇整備活動の実施
- ② 地域の特別支援学級との交流学习や継続的な居住地校交流、作業学習を通じた地域の高等学校との交流の実施
- ③ 地域や交流校からの働きかけを促す連携方法の工夫
- ④ 校内・地域資源の人材活用の継続と生徒の主体性を育てるための活動の工夫
- ⑤ 道の駅での地域学校展の開催や報道機関やHPを活用した情報発信と情報収集

取組(2) 地域のニーズに応じた学校施設等の整備・充実

- ① 由利本荘市及び近隣施設と連携した発災直後の初動対応訓練の計画と実施
- ② 児童生徒引き渡し訓練の実施と検証